

福島茂明先生の急逝を悼む

森 下 恭 光

福島茂明先生略歴



〈略 歴〉

昭和13年 3 月27日 東京都新宿区に生まれる

〈学 歴〉

昭和32年 4 月 早稲田大学第一文学部哲学科
入学
昭和36年 3 月 早稲田大学第一文学部哲学科
卒業
昭和37年 4 月 早稲田大学大学院文学研究科
修士課程 入学
昭和40年 3 月 早稲田大学大学院文学研究科
修士課程 修了

〈職 歴〉

昭和37年 4 月 文園高等学校 教諭 (至 昭和38年 3 月)
昭和38年 4 月 明星高等学校 講師 (至 昭和40年 3 月)
昭和38年 4 月 早稲田大学第二文学部 副手 (至 昭和40年 3 月)
昭和40年 4 月 明星大学人文学部 助手 (至 昭和42年 5 月)
昭和42年 5 月 クウェート国, サウジアラビア王国中立地帯 カフジ明星小学校 教
諭 (至 昭和44年 8 月)
昭和44年 9 月 明星大学人文学部 助手 (至 昭和45年 3 月)
昭和45年 4 月 明星大学心理・教育学科 専任講師 (至 昭和50年 3 月)
昭和48年 4 月 カフジ明星小学校 教諭 (至 昭和51年 3 月)
昭和50年 4 月 明星大学心理・教育学科 助教授 (至 昭和58年 3 月)
昭和58年 4 月 明星大学人文学部心理・教育学科 教授 (至 現在)

われわれの敬愛してやまない福島茂明教授は、平成12年11月29日、忽然として逝かれました。享年62歳ということで、そのあまりに早いご他界は惜しまれてならず、無念としかいいようがありません。

先生にその母校である早稲田大学の学生時代から今日に至るまで長くご指導いただいた

後輩として、ここに先生のお人柄やご業績の一端を綴らせていただきます。

先生は、昭和13年3月27日に東京都新宿区横寺町にある浄土宗の名刹正定院を生家として誕生されました。お父上は、正定院の住職と私立芝高校の教諭を兼職される教育者で、そのご長男としてのご出生でした。

長じて先生は、芝高、早稲田大学と進学され、第一文学部では教育学を専攻されました。

福島先生に私がお会いしたのは、昭和33年に私が同じ大学の同じ学科に入学し、新入生歓迎会が催された折に、先生が先輩として、新入生に対して大学生活に関するアドバイスをなさった時が最初でした。その時の先生の印象は、話術の巧みな頼りがいのある先輩という感じでした。後で聞いたところでは、その頃先生は早稲田大学雄弁会に籍を置いておられたということですから、当然のことであつたかも知れません。

学生時代の先生は、様々な活動をしてられましたので、紹介し切れませんが、大学祭の時に、教育学専修として「世界の大学」というテーマで展示に参加をしたメンバーの中心的役割を果たされていたのが印象に残っています。学部を終えて、引きつづき大学院に進学された時には、研究の対象をベンジャミン・フランクリンに絞り意欲的な研究をされており、後につづいた私にも、種々研究の方法論などについてお話し下さったのを記憶しています。大学院を終えられると、先生は、昭和39年に開学されたばかりで、未だ基盤整備の段階にあった明星大学に奉職されました。昭和40年のことです。この年には、人文学部が設置されましたから、われわれ心理・教育学科に籍を置く者達にとっては学科誕生の記念すべき年でもあります。文字どおり草創期にあった明星大学にあつて、先生は持ち前の企画力と行動力を発揮され、着実にしかも多大な成果をあげて行かれました。その数あるご業績の中でも特筆すべきものとしては、アラビア石油の社員子弟の教育のために開設されたカフジ明星小学校におけるご活躍があります。昭和42年5月から昭和44年8月までが初回、昭和48年6月から昭和51年3月までが2回目と通算2回にわたり赴任され、その大業をなし遂げられたことは、教育学を専攻するわれわれにとって銘記すべきことのひとつであると信じます。

大学にあつても、社会教育学、教育方法学、教育工学といった幅広い研究・教育の領域を持たれた先生は、創見に満ちた研究や教育を展開され、著しい成果をあげられたことは誰しもが認めるところです。

このように、まことに広範な活動をなされた先生ですが、天は二物を与えずの諺のとおり、健康にはあまり恵まれておられなかった先生は徹底した自己管理による療養の甲斐も空しくついに逝かれたのでした。まだまだご活躍いただけたらと思っていた矢先の突然の訃報であつただけに遺されたわれわれの衝撃は痛切なものとあります。しかし、ここで繰り言を連ねるのは故人の好まれぬことですので、尽きぬ想いを抱きつつ先生のご冥福を心より念じつゝ拙文を結ばさせていただきます。

平成13年1月22日